

日本生命倫理学会会報 No.6 2

●目次

代表理事就任の挨拶 ……………1,2	新年度会費・未納会費納入のお願い ……6
副代表理事・事務局長就任の挨拶…2	今後の会報・ニュースレターについて ……6
役員選任・委嘱のお知らせ ……………3	第30回年次大会のお知らせ ……………6
委員選任・委嘱のお知らせ ……………4	
各委員長・担当理事の挨拶 ……………4,5	

日本生命倫理学会事務局

112-0012
 東京都文京区大塚5-7-11-612
 Tel. & Fax. 03-6231-0576
 E-mail jab@nifty.com
 URL <http://ja-bioethics.jp/>

◇ 代表理事就任の挨拶 ◇

代表理事 赤林 朗

この度代表理事を拝命いたしました。私は1988年の第一回大会で発表し、以後30年間、一貫して本学会の発展に微力ながら尽くして参りました。理事としても20年ほど勤めさせていただいたかと存じますが、いよいよ代表理事となり、責任の重大さを感じております。30年見てきておりますと、学会の長所、短所全てが把握できます。また、1988年から30年の間に、日本の生命倫理をとりまく状況は、大きく変化しました。その意味でも今、そしてこれからの本学会の果たすべき役割を再度深く考える時期に来ていると思います。

私としては、3つのIを大切にしていきたいと思います。

一番目は、Interdisciplinary approachです。本学会は4つの分野からの会員から成立しておりますが、これだけ学際性を持った学会は他に無いと思われまます。従前は、法律の立場から、宗教の立場から、医学の立場から、等と言い放しで終わっていた感がありました。しかし真の学際性とは、互いの立場を十分理解したうえで、自分の意見を述べ、そして双方が合意できる解を見出す対話をする事だと思ひます。もちろん解が見つからない場合もあります。しかし昨今の情勢は、ゲノム編集ひとつとっても、なんらかの見解が求められる時代です。私は、この真の学際性を達成するために守るルールは一つだけだと思ひます。それは、各々の背景が異なっても「お互いに理解できる言葉を用い議論する」ことにつきると思ひます。そのルールをまもってさえいれば、繰り返しの対話の中から、なにか新しいものが生まれてくるのではないかと思ひます。本学会が、そのような対話の場、新たな知が生み出されるような場になるよう期待します。

2番目は、Integrityです。研究公正の文脈で用いられるときは、正直、誠実等の意味ですが、もう一つの意味があります。それは、完全な状態、全体性、さらには、自分の主義主張を持つ、という意味です。Product integrity といえば品質管理であり、preserve the integrity of the country といえば、国土を完全に保持する、になります。日本の生命倫理政策等をみてきますと、とにかく自分たちでいつまでも決められない、議題設定ができていないのです。例えば終末期の延命治療中止のガイドライン等、様々な所で長い間議論されていますが、いまだに決まりません。私の申しあげたいことは、「自分たち(日本)のことは、自分たちで考え、解を出し、完結させなければいけない」、ということです。それができない国は、哲学がないのです。日本は、生命倫理の諸問題について、いつまでも外国に頼らず、自ら考え、自らの文化・多様性を尊重しながら、国際社会において認められる解を見出していかなければならないと思ひます。

最後は、Internationalizationです。恐らく多くの説明は必要ないかと思ひますが、生命倫理の諸問題は、国境を越えます。日本だけの視点で考えていては、成り立たない時代です。生命倫

理はこの30年の間、大きくグローバル化しました。日本も、グローバル化の中で、役割をはたさなければなりません。私は、現在国際生命倫理学会（IAB）の理事をしておりますが、残念ながら日本からの参加・発信はほぼ皆無です。私は、本学会と、世界の学会とリンクをつくることにより、人材交流を更に発展させたいと思います。今後は、日本からの世界への発信、国際社会、Global Bioethicsにおける貢献を、学会として考えていくことが必要であると考えます。

これら3つのIを大切にしながら、まずは、本学会のアップデートを推し進めたいと思います。事務局機能、理事会をはじめとする会議等、効率化、迅速化します。WEB 会議システム等を導入し、またホームページも抜本的に改訂し、英文ホームページも作成したいと思います。ニューズレターや会報等、従来郵送費をかけてお送りしていたものは、全て、ホームページで見たいと思います。これらの効率化により、予算を、若手研究奨励、部会活動、国際交流等に回し、学会の活性化を図りたいと思います。

今年の大会は、12月に京都で、学会設立30周年記念大会となります。一つの節目であると思います。30周年記念の企画も準備されようとしています。どうぞ会員の皆様、本学会の発展のために、私も含めまして執行部一同鋭意努力する所存ですので、引きつづき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◇ 副代表理事・事務局長就任の挨拶 ◇

副代表理事 浅井 篤

今回、副代表理事に就任した浅井です。過去三年間は臨床倫理部会担当理事・常任理事として、部会主催または他学会との共催で臨床倫理ワークショップや公開シンポジウムの開催に関わってきました。これからの3年間は代表理事をサポートして生命倫理学会の更なる発展に努めたいと存じます。また来年の平成31年には杜の都・仙台において東北大学主幹で第31回年次大会を開催いたしますので、ご協力よろしく申し上げます。

副代表理事 佐藤 雅彦

本学会の草創期、一般の人々が学会主催の公開研究会等に参加することで、混迷した生命の問題の論点が理解でき、意思決定に役立った実績があります。「車の両輪」のように、研究者が研究成果を上げることと同時に、同時代を生きる人々の「いのちの学びの場」となるような学会運営を期待して就任を引き受けました。ともに学んでいきましょう。

副代表理事 瀧本 禎之

このたび副代表理事を拝命しました東京大学の瀧本禎之です。日本生命倫理学会には、医学部学生時代に、学生会員として入会しました。当時から月日は経ちましたが、現在でも、当学会が生命倫理分野の中心であり、当分野に学問的興味を持った方の受皿であることに変わりないと確信しています。当学会の伝統を生かしつつ、最近の社会情勢に対応するために必要な変化を当学会に起こせるよう、代表理事を補佐していきたいと思っております。

事務局長 伊吹 友秀

この度、事務局長を拝命いたしました東京理科大学の伊吹でございます。大学院生の時に岡山大学で行われた年次大会に参加して以来、ずっとお世話になってきた本学会においてこのような役割をいただき、とても光栄であると同時に身の引き締まる思いがいたします。若輩者ではございますが、生命倫理学会の発展に少しでも貢献できるように努力してまいりたいと考えておりますので、今後のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

◇ 役員選任・委嘱のお知らせ ◇

2018年1月26日に開催された2017年度第3回理事会（新理事会）において、下記の5名が推薦理事に選任されました。

長尾 式子（第1分野） 伊吹 友秀（第2分野） 藤田 みさお（第2分野）
中澤 栄輔（第2分野） 山本 圭一郎（第2分野）

また、今期より副代表理事の設置が理事会で承認され、副代表理事には 浅井篤理事、瀧本禎之理事、佐藤雅彦理事、事務局長には伊吹友秀理事が選任されました。

日本生命倫理学会 第10期役員（理事・監事・評議員）は、下記の通りです。

第10期 役員一覧

1 分 野	2 分 野	3 分 野	4 分 野
●◎赤林 朗	○ 濱口 恵子	○ 板井 孝老郎	○◎会田 薫子
○◎浅井 篤	○ 藤野 昭宏	○◎伊吹 友秀	○ 安藤 泰至
○ 足立 智孝	○ 松井 健志	○◎大谷 いづみ	○ 池澤 優
○ 有江 文栄	○ 三浦 靖彦	○ 大林 雅之	○◎川口 有美子
○ 有森 直子	○ 南 裕子	○ 香川 知晶	○◎佐藤 雅彦
○ 飯島 祥彦	○ 箕岡 真子	○ 樫 則章	○ 島菌 進
○◎大西 香代子	○ 美馬 達哉	○ 蔵田 伸雄	○◎田代 志門
○◎加藤 和人	○ 宮坂 道夫	○◎児玉 聡	○ 田代 俊孝
○◎加部 一彦	○ 宮脇 美保子	○ 小松 美彦	○ 玉井 真理子
○ 川島 孝一郎	○ 山本 洋一	○ 澤田 愛子	○ 柘植 あづみ
○ 川嶋 みどり		○☆清水 哲郎	○ 鶴若 麻理
○ 河原 直人		○ 霜田 求	○◎武藤 香織
○ 小杉 眞司		○ 仙波 由加里	
○ 小西 恵美子		○◎堂園 俊彦	
○ 早乙女 智子		○◎中澤 栄輔	
○ 酒井 シヅ		○◎服部 健司	
○ 佐倉 統		○◎藤田 みさお	
○ 高橋 尚人		○ ベッカー, C	
○◎瀧本 禎之		○◎松田 純	
○◎手島 恵		○◎松原 洋子	
○ 中尾 久子		○ 森岡 正博	
○◎長尾 式子		○◎山本 圭一郎	

任期：2017年定期総会～2020年定期総会 ●代表理事 ◎理事 ☆監事 ○評議員

◇ 委員選任・委嘱のお知らせ ◇

過日、第10期理事会持ち回り審議にて、下記の通り、委員長・委員、部会担当理事・担当委員（新設）が決定いたしました。

第10期 委員・担当一覧

総務委員会	瀬戸山晃一（委員長） 山本洋一（副委員長）	大橋範子 板井孝老郎 鶴飼万貴子 冲永隆子 吾妻知美 伊吹友秀 鈴木慎太郎 鶴若麻理 高嶋佳代 檜本直樹
企画委員会	松原洋子（委員長） 足立智孝（副委員長）	岩江荘介 川口有美子 香川知晶 後藤弘子 手島恵
情報委員会	中澤栄輔（委員長） 河原直人（副委員長）	飯島祥彦 加藤太喜子 田中美穂 堂園俊彦
編集委員会	児玉聡（委員長）	浅井篤 会田薫子 有馬斉 井上悠輔 門岡康弘 小門穂 佐藤雄一郎 田代志門 長尾式子 中尾久子 奈良雅俊 野崎亜紀子 山本圭一郎
国際交流委員会	山本圭一郎（委員長） 有馬斉（副委員長）	井上悠輔 宇田川誠 楠瀬まゆみ 小門穂 鍾宜錚
研究開発委員会	武藤香織（委員長） 大谷いづみ（副委員長）	早乙女智子 佐藤雄一郎 鈴木利廣 高島響子 田中智彦
部会	大西香代子（担当理事）	有江文栄 眞浦有希

(50音順)

◇ 各委員長・担当理事の挨拶 ◇

総務委員会 委員長 瀬戸山 晃一

総務委員長を拝命しました瀬戸山でございます。委員は、9期よりも委員を増やし、各分野から2名以上委嘱し、女性6名・男性6名、現役員（理事・評議員）5名、現役員以外7名、九州地区2名、関西地区5名、東海地区1名、関東地区4名の総勢12名体制で運営してまいります。創立30周年を迎える本学会の各種規約等の点検その他、学会運営に関わる諸課題について情報収集や検討を行い生命倫理学会の今後の発展に寄与していきたいと思っております。

企画委員会 委員長 松原 洋子

第9期から引き続き企画委員長を拝命致しました。これまで各年次大会実行委員会とともに、生命倫理をテーマとする学際的学会にふさわしい研究倫理のあり方を探りながら、抄録作成要領の整備を進めて参りました。今期も大会校の支援を通して、年次大会のさらなる充実のために微力を尽くす所存です。また大会とは別に、本学会の認知度を高めるための企画を検討中です。会員の皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

情報委員会 委員長 中澤 栄輔

情報委員会では、これまで、ニューズレターの発行などを行ってきました。今期は、ウェブサイト刷新を柱として、会員の皆様への情報提供の迅速化、学会外への情報公開の効率化、事務手続きの簡便化、ペーパーレス化を実施してまいります。情報委員の先生方、ならびに他の委員会、事務局とも連携し、会員の皆様の利便性の向上のために努力する所存です。会員の皆様にご意見を頂きつつ進めていきたいと考えております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

編集委員会 委員長 児玉 聡

今回の編集委員会では三つの原則に従って運営したいと考えております。第一は国際化。これは英文誌の創刊で、ワーキンググループを設置したところです。第二は効率化。論文投稿、査読のプロセスをなるべく手間のかからないようにします。最後に、『生命倫理』のより一層の質の向上。すでに次号の発刊に向けて査読が進んでいますが、会員の皆様におかれましては、今後ともご理解・ご協力いただけますよう、謹んでお願い申し上げます。

国際交流委員会 委員長 山本 圭一郎

国際交流委員会の主な課題は、日本生命倫理学会の国際化です。これまでも年次大会等を通じて国際化は進められてきましたが、今期では特に、国際生命倫理学会をはじめとした海外の主要な学会等と連携し相互交流の場を整えること、また、学会HPおよび学会誌を英語化することを目指します。こうした取り組みには、他の委員会との連携はもちろんのこと、会員の皆様にも国際交流の場にご参加頂くことが必要となります。会員の皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

研究開発委員会 委員長 武藤 香織

このたび研究開発委員会委員長を拝命した武藤香織と申します。柘植あづみ・前委員長が構築された若手論文奨励賞の制度を引き継ぐと共に、他の委員会とも連携して若手研究者を助成・支援する仕組みを見直し、学会外のような助成や賞への推薦にも取り組む予定です。全く不慣れた業務ですが、ベテランの委員に助けていただきながら、また受賞経験のある若手委員からも刺激を受けつつ、本学会を盛り立てていきたいと考えています。

部会担当理事(新設) 大西 香代子

今回、部会担当理事を拝命いたしました。光栄に思うとともに身の引き締まる思いであります。理事としては2期目ですが、大役を仰せつかるのは初めての上、何より部会担当自体が新たに設けられた役割ですので、しばらくは手探りで進むことになるかと思えます。微力ではありますが、恩師でもある赤林先生はじめ、理事の諸先生方に支えていただきながら、当学会の会員にとって有益な活動が効率よく運営できるよう励んでまいります。

◇ 新年度会費・未納会費納入のお願い ◇

4月から新年度（2018年度）となりましたので、新年度分の会費納入をお願い致します。ゆうちょ銀行専用の振込用紙を同封しておりますので、**5月31日まで**にお振り込み下さい。振込用紙をご利用せず他の金融機関からお振込の場合は、下記口座へお願いいたします（振込手数料は振込人負担）。※なお、銀行振込の場合は、どなたからの振込か分かるよう、必ず会員名義の口座からお振込下さい。万が一、会員名義以外の口座から振り込む場合は、振込人名を会員のお名前に変更のうえ、お振込下さい。

ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキユウ）店 当座 0005755

三菱東京UFJ銀行 西池袋支店（170）普通 2011797

※上記いずれも口座名は日本生命倫理学会（ニホンセイメイリンリガツカイ）

正会員 7,000円、 学生会員・会友 3,000円

（未納会費のある方には、未納会費分も振込用紙に記載しています。）

未納分の2017年度会費をお支払い下さいました正会員の方へは、学会誌「生命倫理」通巻28号を後日お届けいたします。次号の通巻29号につきましては、2018年9月末発行後、会費納入済みの正会員の皆様へお届けいたします。

※退会をご希望の方は、前年度内に事務局までお申し出いただき、退会届をご提出いただくことになっております。退会時に未納の会費がある場合は、未納分を納めていただいた上での退会となっておりますのでご承知おきください。

当学会の運営は、皆様の会費により成り立っております。ご理解・ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

◇ 今後の会報・ニューズレターについて ◇

情報委員長 中澤栄輔

情報委員会では、会員の皆様に迅速に情報をお届けすることを旨とし、会報、ニューズレターの電子化を実施してまいります。会報につきましても、今号をもちまして、電子化を行い、今後はウェブサイトにて会員の皆様の専用ページを設け、掲示させていただきます。ニューズレターも、第64号より、電子化を実施します。コスト削減にとどまらず、迅速な情報提供により、会員の皆様の利便性の向上に取り組んで参ります。なにとぞご了承ご協力のほど、お願ひ申し上げます。

◇ 第30回年次大会のお知らせ ◇

第30回日本生命倫理学会年次大会は、瀬戸山晃一氏を大会長に、京都府京都市 **京都府立医科大学**にて、以下の日程で開催されます。

開催日：2018年12月8日(土)、12月9日(日)

詳細につきましては、決定次第、ホームページなどでお知らせいたします。